

# 2016年度 行事開催報告

報告：会員交流企画委員会 視察部会

## ニュービジネス企業視察会

“超音波”と“光”の技術を極め、多角化を図ってきた企業から学ぶ

訪問先 ●本多電子株式会社  
●浜松ホトニクス株式会社

開催日：2016年8月9日（水） 8時～18時

参加者：21名

8時15分に名古屋商工会議所をバスで出発した参加者21名は、車中で自己紹介を行い和やかな雰囲気の中で最初の訪問先である豊橋市の本多電子(株)に到着



総務財務部の市川リーダー様

総務財務部の市川リーダー様から本多電子(株)の概要と超音波がどんなところで役に立っているかご説明いただいた。

人間は年齢が高くなると高音域の音は聞こえにくくなることを参加者が実体験。1kHz 5kHzと順次周波数を上げて超音波の領域である20kHzまで全員で試聴。

10kHzあたりから(年齢のせいで)聞こえずに焦り出す人、16kHzでも聞こえる人と様々……

「超音波科学館」で魚群探知機から始まった本多電子(株)の技術の応用を見学。

ご存知の超音波洗浄機、特別にパワーアップした水槽の中で赤鉛筆の芯が削り取られていくのを見てびっくり。

カッターナイフを超音波振動させて分厚い電話帳も軽くカットできることでまたびっくり。



超音波科学館にて説明を聞く参加者



超音波科学館のある本館を後にしてバスに乗り込む

本多電子(株)の見学を終えてバスに乗り込み、昼食会場の「うなぎ処 勝美」へ。

浜名湖のほとりで美味しいうなぎに舌鼓



中央研究所 所長の原常務様

午後2時に浜松ホトニクスに到着  
中央研究所所長の原常務様から会社の生い立ちから現在の事業内容までお話を伺った。

会社設立後60年以上に亘って3人の社長がいずれも社内外での人の「和」を大切にされてきたこと、  
その中で長期的な視野に立って未知の知識を求め研究開発に取り組んでいるというお話しが印象的でした。

中央研究所内で浜松ホトニクスの先端技術の説明を受けた。

ご存知、カミオカンデでニュートリノをとらえた直径50cmの光電子増倍管。実物を見てその大きさ存在感に圧倒される。スーパーカミオカンデではこれが1万個以上びっしりと並ぶ姿を想像。

光子1個を感知する技術、レーザー核融合に取り組む技術、生きた細胞を観測する技術、すばる望遠鏡に使われた世界最高感度のCCD・・・

1つ1つの技術の内容は、少し難しかったけれど未知な世界を見えるようにしていく最先端の技術に興味津々。不思議な高揚感・感動すら感じることできた視察会でした。



スーパーカミオカンデの  
光電子増倍管  
直径50cm



中央研究所の玄関で はい チーズ

帰りの車中で参加された皆さんにアンケートに記入していただきました。  
全員の方から 見学先 内容ともに 良かったと評価していただき、研究開発の重要性・素晴らしさが良くわかった、もっと時間が欲しかった、との声が寄せられました。